



総領事 ご挨拶

2015年第1号 2015/8/14

か
ら
は
I
い

夏の暑い日々と台風の季節を迎えて交代することになりましたマグルビーです。初めから3年間の勤務と決まっていたとはいえ、焦りを感じます。

沖縄に住んで、早いもので3年が経ち、あっという間でした。しかし、自分にとって一生を変える3年でもありました。

心に刻まれた印象と言えば、色々あります。ちむぐる(心)の温かさ、県民の寛大さ、海や緑の美しさ、歴史や伝統の奥深さ、政治の複雑さ、そして自分の忙しさを加えて、とても有意義な毎日を過ごしてきました。

多くの県民の皆様と様々なイベントでお付き合いして、文化の素晴らしさ、島の多様性、観光の楽しさ、そして未来の明るさを痛感いたしました。交流を通して深まる相互理解で難題を扱ったり、お互いに協議・研究したり、また時には遊んだりで友人を一人ずつ増やしていった日々を忘れることなく、得たものを大切に本国に帰ります。助け合えば、安全保障はもちろん、改善できない問題はない筈です。



県民の皆様には多様な見方がおありでしょうが、自分は沖縄のよき理解者に成ったつもりしております。感動と感謝を心溢れる程蓄えて新たに旅立ちます。離島を廻り、15の春を迎える中学生から学んだものも多く、自分がこの度55の夏を迎えております。まだまだ若い感覚で社会に貢献できる人材に育って行く決意ですので、お互いを応援し合い、未来に向かって歩んで行こうではありませんか。

私事を言わせていただければ、離任の淋しさを乗り越えるために、交流の幅広さや出会った皆様の友情を思い、何とか笑顔で旅に出る感覚で「行って参ります」と申しませう。兄弟や姉妹ですから、またどこかでお会いできると信じています。これからもゆたしくうにげーさびら!

総領事館には後任も含めて大変立派なチームが続けて皆様との交流を大事にします。総領事館の友人に任せて安心して帰ります。これからもお付き合い下さい。日米の重要な枠組みで有意義な毎日をいつまでも望んでいます。沖縄あつての日米関係を深めましょう。

にふえーで一びたん。マグルビー

目次

[P1 総領事ご挨拶](#)

[P2-P11 Completion Report on TOMODACHI-SCORE Study Tour in CA from February 20 to March 2, 2015](#)

[P11 Meeting People Where They Are](#)

[P12 第239回アメリカ独立記念日式典および祝賀会・ディープなアメリカンBBQ・ストリートライトケイデンス沖縄ツアー2015](#)

[P13 「英語で朝活」レポート♪・英語教育サポートプログラム](#)

[P14 総領事の俳句ベスト3!](#)

[P15 ☆アメリカンスペースのご紹介☆](#)

[P16 ★ 総領事館イベント情報 ★・4コマ漫画「いちやれば兄弟」・編集後記](#)

今回のからはーいも内容盛りだくさん!ぜひ読んでみてね~!



沖縄米総領事館のキャラクター

「ワシんたん」

Completion Report on TOMODACHI-SCORE

Study Tour in CA from February 20 to March 2, 2015

2014年12月13日(土)に沖縄科学技術大学院大学講堂で開催された、「第3回 スコア! サイエンスinオキナワ: 起業のための研究能力」で優勝した沖縄県立名護高等学校生物部の上間君(3年)、久場さん(1年)、金城さん(1年)の3名と顧問の大隅先生が、2月20日から3月2日の11日間のサンフランシスコ・ベイ・エリアでの研修に参加しました。本研修は、「起業家精神を持った科学者・技術者の育成」、「日米の次世代のリーダーとなる人材の育成」、そして「米国の文化や自然の多様性を体験」してもらうことを目的としており、最先端の研究を行っているベンチャー企業や研究所、米国における高等教育の環境や科学教育への取り組み、シリコンバレーでのグローバルな環境での研究開発の実際、そして同年代の米国の高校生との科学交流を通して、知識の習得のみではなく、コミュニケーション・ツールとしての英語の重要性の認識、自らの進路について深く考え、将来の方向性を明確にするきっかけとなったと思います。



2月20日(金)、午前11時半に那覇空港を出発し羽田空港到着後、溜池山王にあるアメリカン・センター・ジャパンでTOMODACHIイニシアチブの堀田プログラムマネージャーと長尾アラムナイマネージャーからTOMODACHIについてのオリエンテーションと米国での自己紹介や挨拶の仕方を教わった他、4名のTOMODACHIアラムナイの皆さんから、米国での経験を通して自分自身がどのように変わり、積極的に行動を起こせるようになったかを学んだようです。その後、上野の国立科学博物館を見学後、羽田空港国際線ターミナルへ戻り、寸暇を惜しんで英語での発表の練習をしましたが、ジェスチャーや台詞が抜け落ちたり、発音が不明瞭だったり、気落ちしていました。



2月21日(土)

サンフランシスコ名物の霧に町がおおわれていましたが、ツインピークスに登ったところには晴れ上がり、素晴らしい町並みやサンフランシスコ湾の景色を楽しみました。そしてゴールデン・ゲート・パーク内のカリフォルニア科学アカデミーへ。熱帯雨林、プラネタリウム、水族館、博物館が集結した巨大施設で、小さな子どもも多く、幼い頃から科学分野に興味を持たせようとする取り組みと、その展示方法にとっても興味を持ちました。ヒトデやウニに触れるコーナーがあり、スタッフの方とコミュニケーションをとってみたいのですが、単語が良く分からずうまく聞き取れてないようでした。その後は、ゴールデン・ゲート・ブリッジを渡り、対岸からサンフランシスコの景色を眺めたりしましたが、お天気がとても良く、駐車場がどこもかしこも大混雑でした。市内観光を早めに済ませてホテルに戻り、また発表の練習です。効率的に練習し、指摘された間違いをしっかりと直したいと頑張っていました。



2月22日(日)

今回の名護高等学校は、その研究テーマが「光合成細菌」ということもあり、特に植物への関心が高く、今日の「ミアウッズ国立公園」、「カリフォルニア大学植物園バークレー」は沖縄出発前から興味津々でした。「ミアウッズ国立公園」では、コースト・レッド・ウッドの巨木にびっくりしながらも、その生態系にとっても興味がある様で、先生と植生や生息している鳥、虫について熱心に議論していました。

「カリフォルニア大学植物園バークレー」では、カリフォルニア州、メキシコ/中央アメリカとアメリカの砂漠地帯の植物を中心に見学しました。初めて観る植物も多く、またその植物の実が食べられるとか、食べるための道具とか、根の活用とか、その説明が特徴的でした。またアメリカの砂漠地帯のサボテンも多く収集されており、生徒さんにとって、大変興味深いものでした。

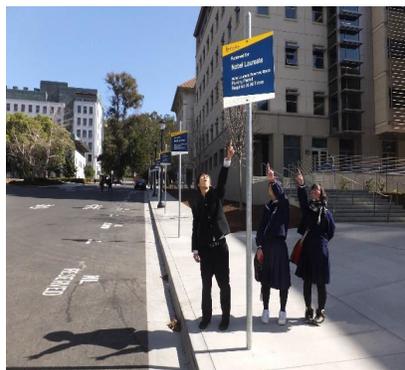
その後、サンフランシスコに戻り、ピア15にある科学博物館エキスポラトリウムへ。多種多様な科学実験を体験できる場所で、多くの子供たちが実験を楽しんでいました。展示物の一つに光合成細菌に関連するものがあり、自分たちの研究成果をどのようにアメリカの高校生に切り出すかと考えあぐねていたもので、この事例を参考に発表の構成を変更しました。



2月23日(月)

午前10時から、UCバークレーの在学生在が案内するキャンパスツアーに、この大学への入学を希望している同年代の学生や保護者と参加。案内してくれた学生は、参加者に自分の声が聞こえているかを確認し、一人一人の目を見て、ジェスチャーを加えながら笑顔で説明してくれました。コミュニケーション能力がとても高い方で、英語での発表の準備をしている生徒さんにとっても非常に参考になるプレゼンでした。学内にはノーベル賞受賞者専用の駐車スペースがあり、その学問的水準の高さを垣間見た気がしました。在学生の80%が州内から、10%がカリフォルニア州外から、そして10%が海外留学生ですが、ほとんどが中国、韓国からの学生との説明に、日米の次世代のリーダーシップの育成のためにも、日本人留学生の数を増やして行く必要性を感じました。

キャンパス・ツアーの後は、「UCバークレー・クラス・パス・プログラム」で「一般化学および定量分析」の授業を受講しました。大講堂での授業で、多くの学生がスマホやタブレットで講義資料を撮影したり、中には食事をしたりしている学生もおり、その自由さにとっても驚いていました。教授も手慣れているようで、重要な連絡事項がある際は、きちんと学生の注意を引き付けてから説明していました。生徒さんの英語での発表と同じ単語や文言が講義の中でも使われているおり、講義の内容を部分的ではありますが理解できたようです。



昼食後、サウス・サンフランシスコにある「REG(Renewable Energy Group)」のサンフランシスコ支社を訪問。同社はアイオワ州の大豆の農協からスタートした会社ですが、現在ではバイオディーゼルの製造工場を全米9ヶ所で運営しており、米国最大のバイオ燃料の生産者となっています。シニアアナリストの網崎さんから、同社のバイオディーゼルの製造工程の説明を受けただけでなく、様々なアドバイスを頂きました。「諦めなければ、いつかは辿り着ける」、「やってみないと、何が自分に合っているのかわからない。一步を踏み出す事が大事」というメッセージが特に生徒さんの印象に残った様です。その後、同社のラボを見学しました。研究員の方々もブラジル、台湾、韓国、中国と国際色豊かな職場で、生徒さんも一生懸命に英語で質問をしていました。



物理の授業では、小グループで「波力」の実験を行っていて生徒さんも飛び入りで実験に参加させてもらいました。最後に、ノアさんという日本語に堪能なローウェル高校の3年生に学内の劇場やガーデンを案内してもらいました。

2月24日 (火)



今日は、カリフォルニア大学でも、特に農学分野の研究が盛んなデービス校へ。サンフランシスコからニューヨーク近郊までアメリカを横断する高速道路80号線を使って約2時間で到着。生徒さんはビジターセンターの大学を紹介するタッチパネルで、同時に様々な情報が得られることに驚いていました。入学選考の手順や寮、学費等の説明を受けてから、キャンパスツアーへ。学内は広々としており、自然豊かで、まさにアメリカの学園都市でした。多くの学生が移動に自転車を使っており、あちらこちらに駐輪場が整備されていました。深夜まで利用できる図書館、24時間利用できる自習室等学ぶための環境が充実しており、生徒さんもこの学習環境に大いに関心を示していました。



キャンパスツアー終了後、カリフォルニア州の州都であるサクラメントへ移動。まるで西部劇に出てくるような古い町並みが続くオールド・サクラメントを散策した後は、Jelly Belly の工場を見学。ワイン街道を車窓から眺めながらホテルへ。明日のローウェル高校での発表に向けて最後の練習です。

2月25日 (水)

とうとう生徒さんにとって一番の関門である、ローウェル高校での英語での研究発表の日。アメリカ到着後も連日深夜まで練習してきたのですが、生徒さんは上手く発表できるかどうか緊張感と不安感で一杯でした。学校到着後、理科主任のスエット先生が迎えてくれて、イシバシ校長先生へ挨拶。お二人に温かく迎えられて生徒さんの緊張感もほぐれてきました。イシバシ校長先生は、母方が沖縄出身で沖縄からの生徒さんを大変歓迎してくれました。早速、科学の授業が行われているクラスへ、皆さんからの期待感と程よい緊張感もあり、笑顔で上手く英語で発表出来ました。発表後の大きな拍手と先生たちの感想、そして教室を出ていく際に同い年の高校生がThank you!と声をかけてくれたことにとってもほっとしていました。しかし、発表後に授業終了の鐘がなってし



まい、質問の時間がとれず、違うクラスでもう一度発表することになりました。その間に日本語のクラスに参加し英語で自己紹介をしました。2回目の発表後に、海洋科学の授業と物理の授業を見学。海洋科学のクラスでは、2人の日系人の女の子と趣味など、少しでもアメリカでの日本の印象を聞くことができたことが生徒さんにはいい機会になりました。

ました。物理の授業では、小グループで「波力」の実験を行っていて生徒さんも飛び入りで実験に参加させてもらいました。

最後に、ノアさんという日本語に堪能なローウェル高校の3年生に学内の劇場やガーデンを案内してもらいました。



午後からは、ジャパントウンへ移動。周辺を散策し米日カウンシルのシニア・バイス・プレジデントのカズ・マニワ氏から、日系アメリカ人の歴史を自身の家族の置かれた立場からご説明頂いたり、ご自身がどうして米日の懸け橋となるに至ったかのお話を伺ったりしました。生徒さんは、沖縄戦での話を祖父母から聞いた経験はあっても、第二次世界大戦中の日系1世や2世の皆さんが置かれた状況について聞く初めての経験でしたが、そういう逆境の中でも頑張ってきて、現在の地位を作り上げてきた日系人の苦難と努力に敬意を表していました。またカズさんからの次世代の日米のリーダーとなるよとの呼びかけには、日米の関係は大切で与えられたチャンスを活かして、日米両国から刺激を受けて成長したいとコメントしていました。

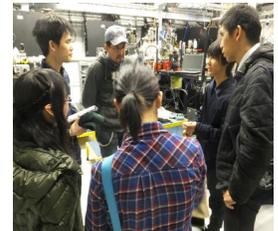
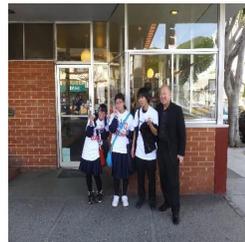
2月26日(木)

今日は、スタンフォード大学が米国エネルギー省との契約で運営しているSLAC国立加速器研究所を見学、それからスタンフォード大学のキャンパスツアーに参加しました。

はじめに、KIPAC (Kavli Institute for Particle Astrophysics and Cosmology)の研究員のDmitry Malyshev氏から宇宙創世記の状況を3D映像を使って説明してくれました。ダークマターやダークエネルギーの話ですべては理解できませんでしたが、概要の把握はできた様です。

研究員の松井さんと橋本さんが同行してくれて、3Km、一直線の建物にあるクライストロン・ギャラリーで、この線形加速器の構造について説明を頂き、そしてから研究現場を見学しました。現在は、応用研究に使われているということで、アジュレーターという装置で電子を曲げたり、より強めたりすることで、今まで見られなかった物質がみえたりだとか、病気の治療に使われたりとかで、あらゆる可能性を秘めていると言うことでした。2年生から履修する物理を楽しめそうだとのコメントもありました。

11時からの、スタンフォード大学のキャンパスツアーに間に合わせて移動。ここでも在学生在が校内を案内してくれました。スタンフォード大学のキャンパスはモスクワ大学に次いで、世界で2番目に広いキャンパスで、ディズニーランドの96個分と聞いてただ驚きました。大学の説明も初日とは違い、聞き取れるところが大分増えているのが実感できて、生徒さんには、それが一番嬉しかったようです。世界屈指の名門校なので、堅苦しいイメージを生徒さんは持っていたようですが、正反対で明るく、楽しいような雰囲気を楽しんでいました。



午後は、シリコンバレーに所在する代表的な企業であるフェイスブックやヤフーの本社を車窓から見学。NASA Ames Research Centerに併設されている展示場にも立ち寄って、NASAの使命やプロジェクトの展示を見学しました。

夕方から、バイオベンチャー企業のJN Biosciences社の入居しているインキュベーション施設を訪問、代表者の鶴下氏にシリコンバレーで起業することやその起業環境について講義して頂きました。起業の良い面だけでなく、厳しい面や現実を教えてくださいました。ベンチャー企業はユニークなアイデアを持っている人が少数精鋭で、リスクの高い研究開発でもチャレンジできますが、「その研究成果を誰かに伝え、評価してもらい、投資を得られなければ意味がない」という言葉が印象的で、英語力そしてプレゼンテーション能力の必要性をつくづく実感していました。また、「何でそのビジネスを進めるかがアイデアで、そのアイデアを試す場がシリコンバレーだ」というコメントに、生徒さんは一歩踏み出して何かをするということが大事だと気付かされたようです。

その後、マウンテンビューのカストロ通りに移動し、ジャパン・バイオ・コミュニティのオーガナイザーの赤間さん、赤松さん、奥田さんと夕食をとりながら、色々なお話を伺いました。3名とも最初は英語で苦労したので早い時期から英語に取り組む必要性和プレゼンテーション能力を高める必要性を強調していました。またアメリカでは、能力があれば国籍や性別は問題にならず、女性にとっては日本より環境は良いとおっしゃっていたのが印象的でした。



2月27日 (金)



自然食品やオーガニック食品を多く扱っているスーパーで、どのような野菜が売られているかを見学し、グーグル社を車窓から見学後、コンピューター・ヒストリー・ミュージアムへ。

生徒さんも積極的に英語をしゃべるようになり、スーパーでも自分が探しているものを店員さんに聞いたり、お客さんにどの様にすれば量り売りの物が買えるかを質問したりして、しっかり自分で買い物もしていました。

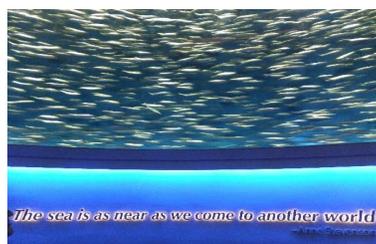


このコンピューターをテーマにした世界最大級の博物館で初めに驚いたのは、コンピューターの始まりがソロバンだった事です。また、真空管を使った大型のコンピューターが時代の変遷と共にたった一個のICチップへ変わっていったことにも大変驚いていました。館内はWi-Fiが使えたので、生徒さんはスマホの辞書機能を使って展示物の説明を訳しながら見学していました。

それから、アップルの本社へ。本社外観を見学後、アップル・カンパニー・ストアでロゴ入りグッズをお土産に購入しました。ホテルに戻る途中で、サンノゼ市近郊のグレートモールという東京ドーム7個分もある巨大ショッピングセンターに寄りました。

2月28日 (土)

今日は、最後の目的地であるモンテレーベイ水族館へ。ホテルから2時間ほどのドライブで目的地に到着。モンテレー湾特有の海洋生物や植物にスポットを当てていて、沖縄の水族館では見ることのできない、ジャイアントケルプ(コンブ)やラッコ、クラゲの展示に生徒さんは夢中になっていました。規模は決して大きくはないのですが、その見せ方が至る所で工夫がされているところに生徒さんは関心していました。



モンテレーからパシフィックグローブ、17マイルドライブを通過してカーメルへ。風光明媚な海岸線に並ぶビクトリア様式の住宅や豪華な別荘、そしてネオンサインやファストフード店を一切排除したカーメルの町波を散策してきました。最後に、上間君のリクエストでアメリカのホームセンターで光合成細菌が売られているかどうかを調査。類似品はあったのですが、完全に定着はしていないようで、ビジネスチャンスを見つけたようです。

日本時間では、3月1日で、上間君の卒業式の日です。ホテルで手造りの卒業証書で名護高校生物部による卒業証書の授与、そして全日程を終えてのテレビ局のインタビューで今日は終了しました。



3月1日(日)

心配していた荷物の重量も無事クリア。サンフランシスコで最後の一枚です。

3月2日(月)

午後9時10分、無事沖繩に到着しました。皆さんお疲れ様でした。



TOMODACHI-Score Study Tour in CA 研修旅行を振り返って

【名護高等学校生物部3年 上間 聖風】

振り返ってみると、1日1日が濃密で充実しており、早く終わってしまったなという印象があります。この濃密な研修の中で、私が一番変わったと思う点は「意識の変化」です。

まず、英語に対する意識の変化がありました。今まで私は英語が苦手だし、話すのも無理だと、あきらめていました。何か私の中で越えられない、超えるのが難しいという壁を勝手に作って逃げていました。しかし、そんな壁はありませんでした。そもそも壁なんてなくて、私が英語を話そうとするか、しないか、それだけ、本当にそれだけでした。

今、この文章を書いているのは飛行機の中です。トイレに行きたくなったとき、右隣の韓国人の方を起こさなければならないのですが、あやふやなたどどしい英語で「トイレに行きたくなったとき起こしてもいいですか?」と言って、通じました。それでいいんだと思います。これを続けていくことで上達するし、会話での文法の使い方も分かってくると思うので、まずはやってみることが大切だと感じています。

また、体力面でも限界と決め付けていたところが、意外と耐えられるものだと思います。意識が変わることで、マイナス思考がなくなり、それに伴って、気分の上も無くなるものだと分かりました。

今回、私たちは光合成細菌をコンビニで売り出そうという方面でビジネスについて考えてきました。しかし、日本で実際にそれをしようとすると、色々な問題が出てきて難しいというのが当初の結論でした。

しかし、シリコンバレーはまったく違いました。起業するにあたっての難しさはなく、アイデアさえあれば、それをやるか、やらないか、そんな感覚でした。ただ、結果を出すまではお金が無くて、自己資金ではじめるか、投資家に投資してもらうかのどちらかです。投資してもらうために必要なことが、プレゼンテーション能力でした。日本はこのプレゼンテーション能力が、海外に比べて低く、そこがビジネスを難しくしているところでもあると思いました。しかし、逆に言えば、まだ進んでいない分野があると考え、今回のアメリカでの経験を日本で生かせるチャンスが私たちにあって、やるしかないと思っています。

この10日間の研修の中で、1番印象に残ったことがあります。

「分からないからおもしろい」という鶴下さんの言葉です。この言葉に私は大変共感しました。いくら考えても分からないことがたくさんあります。けれども、分かるようになっていくと分かるからおもしろくなります。今は分からないけれど、やれることがあって、また未来に希望が持てます。着実に主の手のひらを1歩1歩これからは歩んでいきます。歩んでいく中で、アメリカ、日本、世界をつなげる聖風になりたいです。



【名護高等学校生物部1年 久場 美穂】

今回、私はシリコンバレーでビジネスをやっている人たちに会いました。それぞれの働いている分野は違っているとしても、このシリコンバレーで一人一人自分の仕事に責任とやりがいを感じていました。「

「私が次の世代の架け橋となるんだ」という気持ちを話しているときに感じました。私は、今までビジネスということ深く考えていませんでした。商品を開発して会社を作りビジネスをする、一言で表すと簡単のように思えるが、その裏には、多くの人々の苦労があると分かりました。研究費には多くの金や時間がかかります。しかし、その苦労があってこそ、そこから生まれてきた製品などを、私たちは安心して使うことができるのです。

鶴下さんが薬の開発は十数年かかるが、ステージを踏むことによって、多くの人々が使うことのできる安全な薬にできると言っていました。また、自分たちのようなベンチャー企業の特徴は突飛ないアイデアを考えられる人がいたり、少数精鋭であり、そしてリスクが高くてもチャレンジすることができるという点だそうで、リスクが高いということは、成功したら、多くの利益が生まれます。しかし、失敗したら大変なことになってしまいますが、その大変さも日本と比較すると、再びチャンスがなくなるほどではありません。リスクを恐れずに、ビジネスはやっていけないとも話しておられました。

ジャパン・バイオ・コミュニティの赤松さんたちとの話の中でも、無給で働いていたにもかかわらず、ストックオプションでその後給料分くらいのお金を得たとも言っていました。低リスクばかりを求めていたら、人は重要なときに一步を踏み出しにくくなるのかなと感じました。しかし、リスクを背負うためには予測しておかなければならず、それには学力は必要不可欠とも言っていました。

私は、今、高校一年生であり、高校生活あと二年、そして大学を含めると六年以上あります。その間に語学を含め学力を見につけることはもちろんのこと、自分のことを深く考えて、様々な体験を通して、自分なりの道を選ぶことができたらいいと思います。

私が、もし大きくなって、将来商品を作り、会社を作るときに、この研修旅行での体験は大きな糧となると思います。そして、今回私は多くの刺激を大人の方からいただきました。自分が刺激をもらえたように、私が大きくなったときに、自分が与えることができるような大人になりたいと思いました。

今回の研修旅行では、最初、英語での対応を全て林さんに任せきりでいました。しかし、他人とのコミュニケーションも少しずつ自分から話しかけていくようになって、きれいに文法を作らなくても自分の言いたいことを理解してもらえると分かりました。それから、話しかけやすくなり自分から積極的に話すことができるようになりました。この積極性が私自身の成長を感じることです。この積極性をもって、今後成長していきたいです。



【名護高等学校生物部1年 金城 凜】

この研修旅行を通して、改めて英語と積極性の大切さを学んだ。私は英語を学べるチャンスが十分にあったし、おかげで少しは自信があったが、アメリカでは自分の英語がまったく通じず、かなりショックだった。

この研修旅行で多くの方と会って、話をした。とても共感できる話や初めて知った話もあり、行く前よりも多くの知識についての考えが深まった。

特に、日系アメリカ人3世の万庭和夫さんとの対話で私の中に変化が生まれた。話の中でアメリカ政府から2万ドルの保証金が支払われたとき、金額よりも謝ってくれたということが嬉しかったと聞いた。私は、なぜ自分たちの人生をむちゃくちゃにした相手を憎まずにいられるのだろうかとすごく疑問だった。それを質問すると、家族を養うために、新しい仕事を探したりと大変だったからだという。私なら、いつまでも恨んで現実から逃げてしまったかもしれない。この万庭さんの話を聞いて、短い一瞬に目を向けるのではなく、長い目で見たとき何が今一番大切なことかとしっかり見極められる大人になり、後に自分もそうやって人に己の人生を話せる大人になりたいと感じた。

次に、網崎さんや奥田さんといった女性の話だ。とてもパワフルで、自分のやりたいことのビジョンがしっかり見えている彼女たちはとてもかっこよくて、こんな風になりたいなとあこがれた。共通していたのは「アメリカは日本よりも女性が働きやすい」とのことだった。私は中途半端で優柔不断のところがあり、逃げ出してしまうところがあった。そのため、常に安全なところばかりを歩いてきていたことに気づかされた。これからは、安全な道ばかりを選ぶのではなく、少しずつでも挑戦を増やすことで新しい自分を見つけ、そこを最大限に発揮できるようにしたい。

また、UCバークレーでの化学の講義は、日本ではありえないものであると感じた。授業の中で分からない単語はたくさんあったが、教授の口調や所々に入れられるジョークと質問は、講義の内容をより分かりやすくしていると感じた。学生も積極的に質問していて、教授も図を描いたり、分かりやすく教えていた。

私がアメリカへ行って、一番変わったことは、意識だ。TOMODACHIの先輩方の話を東京で聞いてもいまいち実感が分からなかったことは確かにあって、研修を通して意識の変化などないのではないかと不安になっていた。しかし、アメリカへ行き、多くの人と話す経験や、英文を四苦八苦しながら解読した出来事を通して、もっと英語を学びたいと思った自分に驚いた。会話のとき、少なくとも相手は自分の話を聞こうとしてくれていることに気づけると、もっと一生懸命伝えたいと思う。少ない単語力を使ってでも、熱心に言葉をつなげるだけでも相手には伝わることが分かった。これから努力したいことがたくさんある。

今回アメリカ研修の起因となった「スコア！」は起業のための大会である。研修中、「REG」「JNバイオサイエンス」など様々な会社を見てきた。今、自分にそんなことができるかと言われれば、おそらく間違いなく「No」である。しかし、今からは、何をしたいのか明確に見つけること、後悔ないようにしっかり考えること、これらの経験を今後積むことが大切と思う。起業することはとても大変なことだと想像するが、アメリカで出会った多くの人が共通して話していたことはとても大変なことだと想像するが、彼らが話していたことは「恐れずに一歩踏み出す」ということだった。私も一歩を踏み出していきたいと思う。

【名護高等学校生物部顧問教諭 大隅 大】

今回の研修で得た一番の印象は、日本の教育への危機感である。

私は、生物教師として、高校生に生物学を伝えている。その中で利用する教科書は、アメリカやブラジルで使用している教科書と比較しても、内容は濃く、決して劣っているものではない。ただ、不足しているのは、そこに書かれている内容から、疑問を追究させたり、クリエイティブに物事を考えさせるきっかけづくりが教師の側に少ないことかもしれない。

今回の研修で、UCバークレー、UCデービス、スタンフォードと3校の名立たる大学のキャンパスツアーに参加した。そこでは、中国や韓国出身の留学生が目立つものの日本人の留学生は少なかった。万庭さんや鶴下さんのお話からも、日本人の留学生の減少が伝えられた。

どうして、日本人の留学生は減少しているのだろうか。

その1つの理由として、英語に対する日本の高校生の劣等感があるように思う。しかし、JBCの方からのお話を伺ったときにも出てきたように、「英語はツールであり、何とかするのが現実」という、異国で働くあるいは勉強する人の共通認識を知った。これはできたからそう言えるのではなく、そういうものだという話なのだ。英語はできないよりはできるに越したことは無い。しかし、この感覚が日本の高校生になかなか伝わらない。

同様に、今回の訪問先、網崎さんの所属する「REG」や鶴下さんの会社「JNバイオサイエンス」においても、多国籍な会社である事が説明された。つまり、英語が共通語として存在し、その上で仕事が進められているのだ。日本はこのような多国籍な会社は珍しく、英語を共通語とする会社もまだまだごく一部だ。つまり、このような環境を感じる場がなく、日本の高校生は英語の重要性を頭で知りつつも、肌で感じる機会が少ない。

留学のメリットは大きい。そのメリットの中でも最も大きな点は、優秀な人材と出会い、友達になれるチャンスが生まれるということだ。海外に飛び出している日本以外の国の人はとても優秀な人が多い。そのような人と友人になり、つながりを作ることで、大切なネットワーク作りができる。

「10年先は分からない」というのが、鶴下さんの言葉だ。

日本の国の中だけでは今後やっていけない可能性があり、生き残る必要性もある中で、アジアを含めた海外の多くの優秀な人とネットワークを作れていることは大変大きなアドバンテージになると考えられる。どうしようかと悩む前に行動する積極性や自分自身が勝手に心の中に描いている壁を打ち破る強い気持ちが求められる。

鶴下さんは起業する約5%の人が成功すると言った。起業する母数が多ければ、当然その成功数も増えるだろうと予測できる。決して、シリコンバレーが成功ばかりしているわけではない。失敗はそれ以上にある中で、グーグルやフェイスブック、多くのバイオサイエンス企業の有名な成功例が取りざたされるのだ。

この点から、高校生に何を伝える必要があるだろうか。

私は起業に対する身構え方がアメリカと日本で大きく異なることを感じた。アメリカはプレゼンテーションを行い投資家からお金を集め、起業する。失敗はあるかもしれないが、個人の財産負担面は日本に比べれば少ない。したがって、失敗後も2度、3度とチャンスがあり、再び挑戦し、成功の可能性が残る。ところが、日本の場合、失職や倒産のイメージがあまりにも悪く、日本のドラマの中においても、会社の負債により一家離散や自殺など個人に負担がかかるイメージが植えつけられる。その結果、安全な道を進む方向に傾く割合が高くなる。そこで、シリコンバレーのように、アイデアをもっていれば、チャンスの多い場所でトライすることを積極的に考えられる人が求められていることを伝える必要がある。

さて、そこで、生物教師として何ができるのか考えていきたい。まず、1つ目に英語教育を英語教諭だけの負担とさせないことだ。

留学は英語教諭の仕事、ALT対応は英語教諭の仕事、海外関係は英語教諭の仕事というように、海外に関する多くのできごとを英語教諭の仕事としている。しかし、そうではないはずだ。英語以外の教科は自分たちの得意分野において積極的に英語を積



極的に英語を使用してもいいと考える。例えば、授業の一部を英語で行ってもいいのではないかと考える。英語以外の教科の先生が英語を使うことは、生徒にとって英語に対する壁を打ち破るきっかけ、あるいは専門分野の英語と出会うきっかけになると思われる。

そこで、私は試しに来年度から生物の授業の導入部10分だけでも、英語を使って進めてみたいと思う。1年間を通して実行すれば、その先に何があるのか、見えてくると考える。

次に、プレゼンテーションの機会をさらに増やすことだ。人の前で自分の考えを伝えることの大切さは分かっているようで、なかなか理解が十分ではない。現在、生物など科学の授業では実験を報告させる機会があるが、これをさらに積極的にとり入れ、人に伝える技術の向上とその先にある起業的発想を伝えたい。おそらく、現在の高校教育の中で科学授業に英語を取り入れたり、プレゼン技術を取り入れることは求められているものの立ち遅れている感がある。クリエイティブな考え方を高校生に身につけさせるためにも、「あきらめなければそこにつながる」という万庭さんの考え方で努力を続けたいと考える。

Meeting People Where They Are

私たち沖縄米国総領事館の使命の一つは、沖縄の皆さまと米国間の友好的な対話を深めるために、様々な分野でご活躍される方々と交流をし、協力することです。

この精神のもと、当領事館は沖縄総合事務局(OGB)主催の沖縄の経済発展への取組みを発表する「英語特別研修会」に参加させて頂きました。

研修会参加者の方々に、経済、知的財産権、文化的なマーチャンダイジング、イベントホスティング、及び医療分野に関する取組みを英語という共通言語でご説明して頂くことで、OGBの業務について理解を深めることができました。研修会においての大きなテーマの一つは、持続的な経済成長が当県及びアジアに利益をもたらすということでした。

研修を通して感じたことは、継続的な対話、そして様々な分野でご活躍される地元沖縄の専門家の方々との交流は、沖縄のみならず米国、そして日米同盟にとっても恩沢をもたらすということです。



第239回アメリカ独立記念日式典および祝賀会

2015年7月2日と4日の2日間、第239回アメリカ独立記念日式典および祝賀会が行われました。

7月2日は日ごろお世話になっている関係者の皆様、そして4日は高校生の皆様を対象にしたイベントを開催しました。おかげさまで天候にも恵まれ、総領事館のガーデンで行った今回のパーティーには合計900名近くの皆様にお越しいただきました。

海兵隊のカラーガード(旗手)の入場と日米両国の国家斉唱の厳かな雰囲気ではじめた式典でしたが、祝賀会では琉大モダンジャズオーケストラと第3海兵遠征軍音楽隊の洗練された音楽、スポンサーの皆様からのご提供いただいたお食事、遊び心あふれるゲームやゲスト同士の交流などお楽しみいただきました。

恒例となっている独立記念日のイベントではありますが、毎回、皆様と出会い交流をする度に、今後ともお互いの関係を大切に、よりよい未来を築いていきたいと職員一同、気持ちを新たにします。来年の独立記念日も楽しみです！



ディープなアメリカンBBQ



5月26日にロワジュールホテル那覇との共催でアメリカンBBQの知識を深める講演会が行われました。テキサス州から来たピットマスターWayne Muellerと、テキサススモークにこだわった工場を日本で経営するCraig WhiteによるBBQトークにはじまり、最後の試食会では約100名の参加者がテラス席で夜風を感じながらテキサス風BBQに舌鼓を打ちました。



ストリートライトケイデンス沖縄ツアー2015

7月9日～7月14日まで、ハワイの人気フォークポップバンド、**Streetlight Cadence**が初来沖、各地で演奏しました。台風の影響で中止となったイベントもありましたが、那覇ジュニアオーケストラとのマスタークラスとの交流、基地でのライブ、児童養護施設でのトーク&ライブ、名護アメリカ情報コーナースペシャルコンサート、ぶんかテンプス館前でのストリートライブ、県立芸術大学でのコンサート・学生とのジャムセッションを行い、ファンを魅了しました。近日中にYouTubeに動画をアップロードしますのでどうぞ楽しみに！



「英語で朝活」レポート♪

領事館隣のスターバック스에서朝活を始めてもう3年以上が経過しました。せっかくアメリカに留学したのに帰国してから英語を使う機会がないという声を聞き、気軽に英語を話せる場を提供しよう！ということで始まりました。今では北谷と読谷の3箇所に広がり、出勤前や登校前の時間を使って学生から社会人の幅広い年齢層の方が、英語を使って楽しく情報交換する人気のプログラムとなっています。参加料は無料で、申込も不要。当日、顔を出すだけですぐに参加できるという手軽さが受けているのかも知れません。領事館のアメリカ人外交官も参加し、また米軍や一般のアメリカ人もネイティブ・スピーカーとして会話を盛り上げてくれています。朝7時半にスターバックスへ行くと、意欲満々で目に星の入った皆さんが、朝も早くからコーヒー片手に英語でのおしゃべりに夢中になっていて、お互いの文化を教えあったり、美味しいお店情報の交換、旅行のみやげ話などを行っています。ひと味違った朝を過ごしたい方はぜひ、英語で朝活へ！お待ちしております♪

【英語で朝活 朝7時半～8時半 絶賛開催中～！】

スターバックスコーヒー浦添パークレーズコート店

毎月第2・第4火曜日

スターバックスコーヒー北谷国道58号店

毎月第1・第3水曜日

スターバックスコーヒー沖縄読谷店

毎月第2・第4木曜日



英語教育サポートプログラム



私どもが英語の先生方への様々な無料プログラムを提供していることをご存知でしょうか？沖縄の英語教育レベルを向上させるには英語の先生方のサポートをさせて頂くことが一番の近道！ということで、米国から英語教授法の専門家を招いてワークショップを開催したり、ご自宅で学べる通信講座のご案内をしたり、東京・韓国・米国で開催される英語教授法ワークショップへ沖縄の先生を派遣しています。

今回は「英語で英語を教える」と題して県内にて開催しましたワークショップについて簡単にご紹介します。講師は韓国から飛んで来ましたアメリカ国務省の英語教授法スペシャリスト。理論で説明するのではなく、実践形式のワークショップを展開し、先生方が直接参加して外国語（ポーランド語）を外国語（ポーランド語）で教わるという体験をしました。少ない単語を駆使して、どれだけ生徒を外国語のみで教えられるのか、ということを経験！応用すれば即授業で使うことの出来るテクニック満載で講師のおもしろい授業に皆さん、引き込まれていました。

英語教育向プログラムのご案内は領事館ツイッターとフェイスブックにて随時お知らせしています。Please check it out!



総領事の俳句ベスト3！

マグルビー総領事は俳句マニア(笑)。季節の変わり目の時やイベント、旅先で何か感じるがあるとすぐに一句。その中で総領事の人柄と活動を紹介できる3句をピックアップしてみました。ここで私も一句、「スゴスギル 俳句で語る 総領事」・・・お粗末様でした・・・。



『真夏日に 南を覗く 与論島』

また、総領事として赴任した3年の間にフェリーで行ける沖縄の離島を全て回りました!!地域のイベントや学校訪問を通して、離島にはまた離島それぞれの素晴らしい文化があり、元気な子供たちがいる！と沖縄の多様性への理解を深めていました。各地で大歓迎して頂いた皆様、本当に有難うございました。



『時代越え 人間結ぶ 優勝旗』

2014年2月に約70年(!)ぶりに沖縄市にあります越来(ごえく)小学校に同校の優勝旗を米国から返還することが出来ました。多くの日本人、米国人が協力して実現できたことに感激して詠んだ句となっています。



『旧街道 時代散策 深呼吸』

総領事はまた、沖縄の歴史や文化を知ろうと3年前の着任以来、沖縄中の様々な博物館や遺跡を訪れたり、地元の方々と交流を本当に大事にしてきました。今ではカチャーシーもお手の物！

☆アメリカンスペースのご紹介☆

沖縄では、浦添市と名護市の市立図書館内にアメリカ情報コーナー、そして宮古島市の平良市立図書館にアメリカンシェルフを設けています。日本では入手しにくい米国に関する本や資料を寄贈、それらの資料を通じて文化交流を図る米國務省、米国大使館広報・文化交流部のプロジェクトです。

各アメリカ情報コーナーにはパソコンやタブレット端末が設置されており、ご自由にアメリカの情報を國務省国際情報プログラム局(IIP)が提供する電子図書館へのアクセスや検索もできる他、ポスター展示、講演会やワークショップ、文化プログラム、アメリカ映画鑑賞会、英会話クラブ、米国留学に関する説明会を開催し、地元の皆さまとアメリカとの交流を深めています。

私どものTwitterやFacebookでイベントや活動、そして各図書館のHPもご覧になり、ご興味のあるイベントには是非ご参加下さい。



浦添市立図書館 アメリカ情報コーナー

(<http://library.city.urasoe.lg.jp/>)

〒901-2114 沖縄県浦添市安波茶二丁目2番1号

TEL:098-876-4946 / FAX:098-875-1772

名護市立中央図書館 アメリカ情報コーナー

(<http://www.city.nago.okinawa.jp/5/4144.html>)

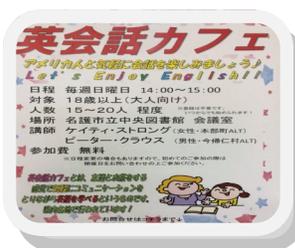
〒905-0011 沖縄県名護市宮里五丁目6番1号

TEL: 0980-53-7246 / FAX: 0980-52-2607

宮古島市立平良図書館 アメリカンシェルフ

(<http://www.city.miyakojima.lg.jp/soshiki/kyouiku/syougaiqakusyu/tosyokan/>)

〒906-0012 沖縄県宮古島市平良字西里187番地 TEL: 0980-72-2235 / FAX: 0980-73-1136



4コマ漫画 ～「いちやりば兄弟」～

☆総領事館イベント情報☆



- 9月5日(土) 中学生・高校生英語パワーポイントコンテスト
- 9月9日(水) 講演会「ロボット開発の日米協力～新たなビジネスの創造へ～」
- 9月17日(木) 講演会「シリコンバレー発クリーン&コネクテッドシティの技術」
- 9月26日(土) 琉米高校生漫画コンテスト
- 10月 ダニエルパール・ワールドミュージックデイズコンサート
- 11月18日(木) オキナワン・ファースト ビジネス・フェア
- 11月28日(土) TOEFL iBTテストセミナー&米国大学(院) 留学説明会
- 12月12日(金) 「第4回 SCORE! サイエンスinオキナワ: 起業のための研究能力」

詳細はTwitter [@USConsulatenaha](https://twitter.com/USConsulatenaha)、Facebook [在沖米国総領事館](https://www.facebook.com/inaha.usconsulate)に随時掲載します。

(編集後記)

「年は馬の走り」(としやうまぬはい…年月が過ぎるのは、馬のかけていくようにあっというまに過ぎるという意味)という沖縄の黄金言葉がありますが、若いころ(?)と比較して、ここ数年、時間の流れがあっという間に過ぎ去るような気がします。

そんな中、マグルビー総領事も充実した沖縄での任期を終え、帰国することになりました。マグルビー総領事がこれまで培ってきた沖縄とアメリカの橋渡しも次総領事へとバトンが受け継がれることとなりますが、引き続き両国でともに学びあいながら、親交を深めていけたらと願っております。



在沖繩米国総領事館

〒901-2104 沖縄県浦添市当山2-1-1

Homepage: <http://japanese.naha.usconsulate.gov/>

<http://naha.usconsulate.gov/> (English)

